

4. 国際交流

① 外国人研究員プログラム（長期）

センターには外国人研究員3名が配置されており、毎年9～10ヵ月センターに滞在し、研究部専任研究員とともに研究活動を行っている。

外国人研究員の選考は、公募によって行われている。公募要領は、センターのホームページのほか、米国スラブ研究促進学会（AAASS）、国際中東欧研究学会（ICSEES）などのニューズレターにも掲載され、センターの外国人研究員制度は国際的にも認知されている。このため、各年度の応募者は世界中から50名程度となっており、研究部専任を選考委員として行われる毎年の選考は、難航することが多い。選考は、申請者の業績、推薦状などのほか、国・地域別、学問分野別のバランスなどを考慮して行われている。

1999年度

応募者 51名（国籍別内訳：オーストラリア1、アゼルバイジャン1、ベラルーシ2、ブルガリア7、中国4、クロアチア1、チェコ2、ドイツ1、カザフスタン1、クルグズスタン1、ポーランド4、ルーマニア1、ロシア14、英国1、ウクライナ5、ウズベキスタン1、米国4）

採用者 3名（国籍別内訳：ブルガリア1、中国1、米国1）

氏名	所属	研究テーマ
ウィタカー、シンシア・ハイラ	ニューヨーク市立大学大学院歴史学研究科	専制と進歩：18世紀ロシアにおける絶対主義の正当化
リュウ、クイリ	中国社会科学院少数民族文学研究所	19世紀を中心とするロシア北方の口承文芸
ニコヴァ、エカテリナ・ルベノヴァ	ブルガリア科学アカデミーバルカン問題研究所	小国家と強大権力：世紀の転換期におけるバルカン政治の再考

2000年度

応募者 47名（国籍別内訳：バングラデシュ1、ベラルーシ1、ブルガリア2、カナダ2、カザフスタン2、クロアチア2、チェコ1、中国2、フランス2、ハンガリー2、ポーランド4、ロシア14、スロヴァキア2、タジキスタン1、トルクメニスタン1、ウクライナ6、米国2）

採用者 3名（国籍別内訳：クロアチア1、ロシア2）

氏名	所属	研究テーマ
マゴメドフ、アルバン・クルバノヴィチ	ウリヤノフスク国立工科大学歴史・文化学部	パイプライン問題：カスピ海からノボロシイスクへの石油輸送をめぐるロシア地方エリートの政治的インセンティブと行動

4. 国際交流

ルキッチ、ルネオ	ラヴァル大学歴史学部	ヨーロッパのポスト共産主義の民族・連邦国家：ロシア連邦とユーゴスラビア連邦共和国のケーススタディ
ラーニン、ボリス・アレクサンドロヴィチ	ロシア教育アカデミー教育情報研究所	20世紀ロシア文学における皮肉と風刺

2001年度

応募者 46名 (国籍別内訳：ベラルーシ3、ブルガリア2、中国2、チェコ5、ドイツ1、ハンガリー1、カザフスタン2、モルドヴァ1、ポーランド3、ルーマニア3、ロシア17、タジキスタン2、トルクメニスタン1、ウクライナ3)

採用者 3名 (国籍別内訳：中国1、チェコ1、ロシア1)

氏名	所属	研究テーマ
ボルホヴィチノフ、ニコライ・ニコラエヴィチ	ロシア科学アカデミー世界史研究所	シベリアとアラスカにおけるロシアの入植(類似点と相違点)
シン、グァンチェン	中国社会科学院東欧中亚研究所	中央アジアにおける中ロ関係
パヴリネク、ペトル	ネブラスカ大学地理・地質学部	中東欧における自動車産業の再編

2002年度

応募者 40名 (国籍別内訳：ベラルーシ1、ブルガリア1、カナダ1、中国1、フランス1、クルグズスタン1、リトアニア1、ルーマニア4、その他東欧6、ロシア18、トルコ1、英国1、ウクライナ1、米国2)

採用者 3名 (国籍別内訳：ブルガリア1、ロシア1、米国1)

氏名	所属	研究テーマ
ブルダコフ、ヴラジミール・プロホロヴィチ	ロシア科学アカデミーロシア史研究所	ロシアにおける社会危機と集団心理：1904-1921年と1985-2000年の比較研究
カラギョゾフ、パナヨト・ディミトロフ	カレル大学哲学部スラブ東欧学研究所	モダニズムとポストモダニズム及び個人主義と集団主義の狭間から見た20世紀スラブ文学
ペイン、サラ・クロスビー・マロリー	アメリカ海軍大学戦略・政治学部	運命的ジレンマ：1932-1945年における中国をめぐる日ソ間の勢力争い

2003年度

応募者 59名 (国籍別内訳：アルメニア1、バングラデシュ1、中国1、チェコ2、エストニア1、グルジア5、ハンガリー2、イスラエル1、カザフスタン2、クルグズスタン3、リトアニア1、ルーマニア3、ロシア22、スロヴァキア1、オランダ1、英国2、ウクライナ1、米国3、ウズベキスタン4、ユーゴスラヴィア2)

採用者 3名 (国籍別内訳：ロシア1、英国1、米国1)

4. 国際交流

氏名	所属	研究テーマ
ボブロフ, アレクサンドル・グリゴリエヴィチ	ロシア科学アカデミー ロシア文学研究所	『イーゴリ軍記』 信憑性の問題
スウェイン, ナイジェル・ジョン	リヴァプール大学歴史学部	ポスト社会主義期における農村改革
ズナメンスキー, アンドレイ・アンドレヴィチ	アメリカ合衆国議会図書館	シベリアにおけるシャマニズム：ロシア人のイメージに見える原住民の精神生活

2004 年度

応募者 68 名 (国籍別内訳：ブルガリア 1、カナダ 2、中国 2、チェコ 1、フランス 1、グルジア 3、ハンガリー 2、イタリア 2、カザフスタン 2、韓国 1、リトアニア 1、ポーランド 5、ルーマニア 1、ロシア 26、スロヴァキア 4、タジキスタン 1、英国 2、ウクライナ 8、米国 1、ウズベキスタン 1、ユーゴスラヴィア 1)

採用者 3 名 (国籍別内訳：ロシア 2、米国 1)

氏名	所属	研究テーマ
ルコヤノフ, イーゴリ・ヴラジミロヴィチ	ロシア科学アカデミー 歴史研究所	1890～1904 年のロシア極東：政策の選択
シュニレルマン, ヴィクトル・アレクサンドロヴィチ	ロシア科学アカデミー 民族学・人類学研究所	「不滅の回帰」？：20 世紀の北コーカサスにおける知識人と政治
ワース, ポール・ウィリアム	ネヴァダ大学歴史学部	聖なるものの仲裁者：「外国の信仰」とロシア帝国における宗教的寛容 1772-1914 年

2005 年度

応募者 64 名 (国籍別内訳：オーストラリア 1、ブルガリア 2、カナダ 1、中国 1、エストニア 2、ハンガリー 4、韓国 2、クルグズスタン 1、リトアニア 1、モルドヴァ 1、モンゴル 1、ポーランド 1、ルーマニア 1、ロシア 26、スロヴァキア 3、スウェーデン 1、タジキスタン 5、英国 1、ウクライナ 5、米国 3、ウズベキスタン 1)

採用者 3 名 (国籍別内訳：ロシア 2、米国 1)

氏名	所属	研究テーマ
ドルビロフ, ミハイル・ドミトリエヴィチ	ヴォロネジ国立大学歴史学部	大改革期における周辺部、または周辺地域の改革：ロシア帝国の北西地域と「国家建設者」としての官僚制、1855-1881 年
グチノヴァ, エルザ・バイル・マツァコヴナ	ロシア科学アカデミー 民族学・人類学研究所	ジェンダーの視点から見たソ連期のカルムイク人強制移住、1943-1956 年
レノー, マシュー・エドワード	アサンプション大学歴史学部	ソヴィエト文化、政治統制、プロパガンダの枢軸時代、1917-1941 年

② 外国人研究員プログラム (21 世紀 COE など短期)

センターは 1995 年度に「卓越した研究拠点 (COE)」形成プロジェクトの支援対象機関に選ばれ、そのなかで「外国人研究員経費」を支給されることとなった。センターでは、この経費により、3～5 ヶ月の期間で年間 3 人の外国人研究員を招聘する事業を開始した (1995 年度は、9 ヶ月 1 名、2 ヶ月 1 名)。

当初は、この制度の継続性が保証されていなかったため、とくにこの制度のための公募は行わず、長期外国人研究員制度の応募者等のなかから選考していたが、1999 年度からは、長期外国人制度と同様の公募を、長期外国人制度とは別個に行うようになった。しかし、COE 形成プロジェクトが 2001 年度で打ち切られたことから、公募による選考が終わっていた 2002 年度については、別の予算でこの制度を継続した。2003 年度についての公募は 2002 年度中には行わなかった。外国の第一線の研究者のなかには、9 ヶ月間も勤務先を離れることのできない人も多く、この短期外国人研究員制度にも、1999～2002 年度には毎年 50 名程度の応募があった。

2003 年度にセンターが中心となって申請した 21 世紀 COE プログラムが採択された。上記のように、短期外国人研究員制度の有用性が明らかにならなため、2003 年度からはこの COE 予算により、3 ヶ月未満の期間で年間 3～4 人程度の外国人研究員を招聘する事業を開始した。公募期間が短く、十分に宣伝できなかったため、2003 年度の実応募者は、2002 年度以前と比べて非常に少なくなったが、2004 年度以降、少しずつ応募者数も増えている。選考は、申請者の業績、推薦状、国・地域別、学問分野別のバランスのほか、COE プログラムとの関連性も重視して行われている。

1999 年度

応募者 47 名 (国籍別内訳：ブルガリア 5、ボスニア 1、中国 3、チェコ 4、フランス 1、グルジア 2、ハンガリー 2、クルグズスタン 1、モルドヴァ 2、ポーランド 6、ロシア 15、スロヴェニア 1、ウクライナ 4)

採用者 3 名 (国籍別内訳：ロシア 1、米国 2)

氏名	所属	研究テーマ
ティラド、イサベル A.	ウィリアム・パターソン大学歴史学部	ネップ末期の農村コムソモール
クルプニク、イーゴリ	スミソニアン研究所国立自然史博物館	シベリア少数民族聞き取り調査の分析
ハーン、ジェフリー・ウィリアム	ヴィラノヴァ大学政治学部	ロシア極東地域における民主主義の展望

2000 年度

応募者 51 名 (国籍別内訳：ベラルーシ 1、ブルガリア 3、中国 1、チェコ 2、ハンガリー 2、カザフスタン 1、モルドヴァ 3、ポーランド 1、ルーマニア 12、ロシア 18、英国 2、ウクライナ 2、米国 3)

採用者 3 名 (国籍別内訳：ロシア 2、米国 1)

4. 国際交流

氏名	所属	研究テーマ
ヒッキー、マイケル・ケアリ	ブルームスバーグ大学 歴史学部	革命のスモレンスク：1917～1918年の地方の政治と社会、1880～1945年のスモレンスクのユダヤ人
ラコバ、スタニスラフ	アブハジア人文科学研究 所	ポストソビエト期（1991～1999年）のアブハジアにおけるロシアの政策
ブスイギナ、イリーナ	ロシア科学アカデミー ヨーロッパ研究所	アイデンティティを求めるロシアの地域

2001年度

応募者 40名（国籍別内訳：アルメニア1、オーストラリア1、ブルガリア2、カナダ2、中国1、チェコ7、エストニア1、フィンランド1、フランス1、ハンガリー2、インド1、イスラエル1、韓国1、クルグズスタン1、ポーランド1、ルーマニア2、ロシア5、スウェーデン1、オランダ1、英国1、ウクライナ5、米国1）

採用者 3名（国籍別内訳：アルメニア1、フィンランド1、スウェーデン1）

氏名	所属	研究テーマ
アブラハミヤン、レヴォン・フマヤク	アルメニア科学アカデミー考古学・民族学研究所	広場の人々：民族学的観点から見た旧ソ連における民族運動
ヘッドルンド、ステファン・ペテル	ウプサラ大学東欧学部	権力対財力：ロシアの伝統において規則と権利の果たす役割
ヤンフネン、ユハ・アンテロ	ヘルシンキ大学東アジア言語・文化研究所	シベリアと満州における熊崇拜とフィメール・シャマニズム

2002年度

応募者 54名（国籍別内訳：オーストラリア2、ブルガリア4、カナダ2、中国1、イスラエル1、イタリア1、カザフスタン3、クルグズスタン4、ポーランド6、ルーマニア1、ロシア12、スロヴァキア2、タジキスタン2、英国1、ウクライナ1、米国4、ウズベキスタン6、ユーゴスラヴィア1）

採用者 3名（国籍別内訳：オーストラリア1、ロシア1、米国1）

氏名	所属	研究テーマ
ウルフ、ディビッド	ウッドロウ・ウィルソン・センター冷戦史プロジェクト	全ての法を超えて：バルト諸国におけるKGB、1945-1991年
コテルニコフ、ヴラジミール・アレクセーヴィチ	ロシア科学アカデミー ロシア文学研究所	19～20世紀のロシアの思想、政治、文化における「東方問題」
ジュークス、ジェフリー	メルボルン大学現代欧州研究所	ポストソビエト期におけるロシア極東の地域発展と国際関係

4. 国際交流

2003 年度

応募者 14 名 (国籍別内訳: ベラルーシ 1、ブルガリア 1、フランス 1、ルーマニア 1、ロシア 9、ウクライナ 1)

採用者 4 名 (国籍別内訳: ロシア 3、ウクライナ 1)

氏名	所属	研究テーマ
フンドロヴァ、タマラ・イヴァニヴナ	ウクライナ科学アカデミーウクライナ文学研究所	ウクライナ近現代文学
ラコバ、スタニスラフ・ゾシモヴィチ	アブハジア大学考古・民族学部	アブハジア問題と国際関係、特にグルジアをめぐる情勢
ノヴィク、ユリア・オレゴヴナ	カムチャッカ教育大学人文学部	ロシア極東における少数民族、特にカムチャッカにおけるロシア正教の布教活動と原住民について
タイマーソフ、レオニード・アレクサンドロヴィチ	チュワシ大学歴史学部	ヴォルガ-ウラル地域の民族宗教史、特に、19～20世紀初頭のチュワシ人作家の作品における信仰と民族アイデンティティ選択の問題

2004 年度

応募者 16 名 (国籍別内訳: ベラルーシ 1、ブルガリア 2、クロアチア 1、ロシア 7、スウェーデン 1、タジキスタン 1、ウクライナ 2、ウズベキスタン 1)

採用者 3 名 (国籍別内訳: ロシア 3)

氏名	所属	研究テーマ
ゴリゾントフ、レオニード・エフレモヴィチ	ロシア科学アカデミースラブ学研究所	心象地図と帝国の地域学(ヨーロッパ・ロシアの場合)
グリニョフ、アンドレイ・ヴァリテロヴィチ	サンクトペテルブルク労働組合人文大学歴史学講座	アラスカの歴史
ムハリャモフ、ナイル・ミトハトヴィチ	カザニ・エネルギー大学社会科学講座	タタルスタンの政治、ヴォルガ地方のイスラム

2005 年度

応募者 22 名 (国籍別内訳: チェコ 1、フランス 2、グルジア 1、カザフスタン 1、ラトビア 1、モルドヴァ 1、モンゴル 1、ロシア 9、スロヴァキア 1、オランダ 1、トルコ 1、英国 1、英国 1)

採用者 5 名 (国籍別内訳: フランス 1、グルジア 1、ロシア 2、オランダ 1)

氏名	所属	研究テーマ
ゴルノフ、セルゲイ・ヴァレリエヴィチ	ヴォルゴグラード国立大学地域研究国際関係学部	ロシア-中央アジア諸国間の国境防衛を脅かす麻薬取引について

4. 国際交流

ハーニン、ギルシュ・イツィコヴィチ	シベリア公務アカデミー	ポストソ連期のロシアにおけるマクロ経済の公式統計に対するオータナティブな分析
メイラク、ミシェル	ストラスブール大学スラブ諸言語学部	世界各国における亡命ロシア人芸術家が与えた影響と、そのペレストロイカ期以降のロシアにおける受容
サニキゼ、ギオルギ	グルジア科学アカデミー東洋学研究所	現代のカフカズ諸地域におけるムスリム・アイデンティティの多様性と共通性、世界化のプロセス
デ・グラーフ、チェルド	オランダ科学アカデミーフリージャン・アカデミー	日本とロシアの国境地域における先住諸民族間の関係の形成史および現状について

③ 学術交流協定

センターは、海外の多くの研究機関との間で部局間交流協定を結んでおり、2006年3月1日現在、以下の9つの協定が有効である。国別内訳は、ロシアが4のほかは、米国、英国、フランス、オランダ、中国が各1となっている。

交流協定の内容としては、研究員・大学院生相互訪問の際の便宜供与、出版物の交換などが中心となっている。実際、これらの多くの研究機関との間では、毎年数人規模の研究員・大学院生の相互訪問（シンポジウム等への出席、短期滞在等）が実現している。

- ・ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史・考古・民族学研究所（発効年月日：1990年4月1日）
- ・ハーバード大学デイビス研究センター（1993年1月1日）
- ・ライデン大学東欧法律・ロシア研究所（1994年1月1日）
- ・中国社会科学院東欧ロシア・中央アジア研究所（1995年1月1日）
- ・フランス国立東洋学東洋文化研究所ロシア・ユーラシア研究センター（1995年1月9日）
- ・オックスフォード大学ロシア・ユーラシア研究センター（2004年3月12日）
- ・国立カザニ・エネルギー大学経済学・社会工学研究所（2005年1月28日）
- ・ロシア科学アカデミー東洋学研究所（2005年10月17日）
- ・サハリン国立大学（2006年2月17日）

④ センター主催の国際シンポジウム

センターでは、年2回（夏と冬）全国の共同研究者等を招聘して、研究報告会を開いてきたが、1990年度から夏期研究報告会は、国際シンポジウムとして開催されるようになった。冬期研究報告会についても、1998年度から「冬期シンポジウム」と呼ぶようになり、2000年度からは国際シンポジウムとして開催されるようになり、年2回の国際シンポジウム開催が定着した。

開催経費については、下記の表中2003年度までの夏期国際シンポジウムは、文科省の国際シンポジウム経費を申請して開催していたが、同経費が2003年度で打ち切られたため、2004年度以降の夏期国際シンポジウムは、基本的に21世紀COEプログラムの資金で開催している。冬期国際シンポジウムについては、校費、科研費、21世紀COEプログラム経費などで開催している。なお、2003年9月と2005年12月の国際シンポジウムは、国際交流基金の支援を受けて開催された。

参加者数は100名を超え、外国人招待者数も10名を超えるようになっており、国内外から自費で参加する者も増えている。運営面の特徴としては、討論を重視する立場から、ペーパーの事前提出とホームページへの掲載を徹底しており、参加者はセンター・ホームページからすべてのペーパーを事前にダウンロードできるようになっている。報告時間と各セッションの時間の厳密な管理など、シンポジウムの運営については、外国人参加者からも高い評価を得ている。

テーマ	開催責任者	参加者数 (うち外国人招待者数)	期 間
ロシアの地域：経済成長と環境	村上 隆	141人 (13人)	1999年7月21日～23日
変移する境界：スラブ・ユーラシア世界の3世紀	林 忠行	115人 (5人)	2000年1月27日～28日
ロシア文化：新世紀への戸口に立って	望月 哲男	104人 (6人)	2000年7月12日～15日
スラブ・ユーラシア諸国におけるリージョン：歴史と現在	山村 理人	100人 (3人)	2001年1月25～27日
東欧ロシア農村社会の変容と多様化	家田 修	76人 (8人)	2001年7月11日～14日
ソ連崩壊後の10年	田畑伸一郎	70人 (10人)	2002年1月30日～2月2日
スラブ・ユーラシアにおける国民史の構築と脱構築	林 忠行	122人 (9人)	2002年7月10日～13日
20世紀初頭のロシア・東アジア・日本：日露戦争の再検討	原 暉之	106人 (8人)	2003年1月29日～2月1日
スラブ・ユーラシアの世界経済・国際社会との統合	田畑伸一郎	127人 (13人)	2003年7月16日～19日

4. 国際交流

中・東欧の民主政と市場経済：新制度は定着するのか？	林 忠行	47人 (8人)	2003年9月3日～5日
旧社会主義諸国に出現しつつある中域圏：歴史は甦りつつあるのか、それとも創作されているのか	松里 公孝	147人 (18人)	2004年1月28日～31日
21世紀のシベリア・極東：「アジア共同体」のパートナー	村上 隆	172人 (17人)	2004年7月14日～16日
スラブ・ユーラシアと隣接世界の再編	家田 修	89人 (13人)	2004年12月8日～10日
中央ユーラシアの地域的・超域的ダイナミズム：帝国、イスラーム、政治	宇山 智彦	131人 (11人)	2005年7月7日～9日
中・東欧の地域：過去と現在	林 忠行	117人 (9人)	2005年12月14日～16日